

熊本県立菊池少年自然の家 指定管理者 令和3年度(2021年度)
管理運営評価票

所管部課:教育庁市町村教育局社会教育課

I 施設の管理概要

指定管理者名	ひとづくりJAPANネットワーク・三勢共同体
指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
施設概要	① 所在: 菊池市原4885番地5 ② 施設: 宿泊棟、研修室、体育室、キャンプ場等 ③ 目的: 本施設は、健全な青少年の育成と県民の生涯学習の振興を目的として設置された県立の青少年教育施設である。宿泊施設及び各種の体験活動のための施設・設備を活用して、利用団体による自主的な研修利用のほかに、自然や季節の特徴を活かした教育的プログラムとして企画事業を実施している。自然の中での体験活動が中心であるため、特に利用者の安全確保に留意して運営している。
指定管理料	305,712,000円(4施設(天草青年の家、菊池少年自然の家、豊野少年自然の家、あしきた青少年の家)を一括で委託、利用料金制)

II 管理運営の評価

1 管理業務の水準の評価

管理業務の水準を表す指標	目標値	実績値	備考
研修者延べ数	15,444人	12,200人	前年度実績9,534人
研修活動中の事故の有無	0件	0件	軽傷を除く
【点検・調査結果及び評価】 新型コロナウイルスの影響で受入数を定員の概ね半数を目安としているため、研修者延べ数はコロナ前と比べると減少しているが、前年度実績と比べると増加しているため、コロナ禍でも工夫しながら受け入れを行ったと認められる。 県では、特に施設における利用者の安全確保を重視し、指定管理者への指導を徹底しているため、期間中の事故発生が0であった点について評価できる。			

2 管理業務実施状況

① 施設維持管理業務実績

作業項目	業務内容	実施回数	備考
清掃	所内清掃	通年	
保安・警備	宿直業務	通年	
	給湯運転監視	通年	
保守点検	電気設備保守点検	年6回(隔月)	専門業者に委託
	身障者用昇降機点検	年1回	同上
	消防設備保守点検	年2回	同上
	自家発電設備保守点検	年2回	同上
	監視カメラ保守点検	月1回	同上
	空気環境測定	年5回	
	害虫駆除	年1回	専門業者に委託
	受水槽・高架水槽清掃	年1回	同上
	水質検査(残留塩素)	週1回	
	浄化槽保守点検	年24回	専門業者に委託
	浄化槽清掃	年1回	同上
	浄化槽法定検査	年1回	同上
	水質検査	年1回	同上
	塩素滅菌設備点検	月1回	同上
	建築設備定期点検	年1回	
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>施設設備の清掃、保安・警備および点検等については仕様書どおり専門業者が実施、頻度・内容ともに水準を満たしており、良好に管理されている。</p>			

② 運営事業実績

【主な事業・イベント】

事業・イベント名	開催時期	参加者数	趣旨・内容
集団宿泊教室担当者セミナー (全3回)	4/27 6/1 8/11	8人 10人 13人	利用予定の集団宿泊教室担当者に、研修の意義や効果的な利用方法について習得してもらう。 また、体験活動における指導者の安全管理意識及び指導技術の向上を図り、充実した集団宿泊教室を実施してもらえるようにする。
ファミリーキャンプ ～スプリング編～	5/8～ 5/9	39人	自然体験活動をとおして、家族の絆を深める。さらに、アウトドアで過ごす楽しさを味わいながら、家族での思い出作りの機会とする。
夏だ！川だ！サンサンサマー	7/24 7/25	21人 24人	川遊びを通して、子どもたちの交流を深めながら、生きる力を身につけるとともに、自然に親しみ豊かな心を育てる。
幼保連携事業	7/30 8/20 8/27 11/4 11/11 11/18 12/22 3/17	17人 27人 36人 13人 25人 37人 13人 29人	(1) 幼児期における自然体験の機会を増やし、自然体験活動をとおして、幼児期における人間形成の基礎(知・徳・体)を培う。 (2) 保護者にとって、自然体験活動の楽しさや自然体験活動を子育ての中に入れていく重要性を知る機会とする。 (3) 幼稚園・保育所と自然の家が連携して自然体験活動の指導法を開発する。
ファミリーキャンプ ～オータム編～	10/30	17人	自然体験活動をとおして、家族の絆を深める。さらに、アウトドアで過ごす楽しさを味わいながら、家族での思い出作りの機会とする。
スマイルキャンプ	1/13 1/26	7人 14人	自然体験活動をとおして、達成感や満足感を味わい、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、他参加者との交流を深める。
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>R2年度は5事業の実施であったが、R3年度は18事業を実施することができた。参加者の意見を取り入れながらコロナ禍でも実施できるよう新しい実施方法やプログラムを提供できた。外出自粛が増える中、施設の立地環境を生かした自然体験活動を提供した点については評価できる。</p>			

3 利用状況

施設名	年計	年計	前年度計	前年度比
本館	開館日数	359 日	298 日	120.5%
	宿泊可能日数	244 日	173 日	141.0%
	利用日数	167 日	112 日	149.1%
	利用率	46.5%	37.6%	123.7%
	利用者実数	5,389 人	4,353 人	123.8%
	利用者延べ数	8,462 人	6,942 人	121.9%
キャンプ場	開館日数	359 日	298 日	120.5%
	宿泊可能日数	244 日	173 日	141.0%
	利用日数	167 日	0 日	-
	利用率	1.4%	0.0%	-
	利用者実数	78 人	0 人	-
	利用者延べ数	117 人	0 人	-
出前講座等	利用者実数	2,367 人	1,639 人	144.4%

【点検・調査結果及び評価】

R2 年度は新型コロナウイルスの影響で利用者が大幅に減っていたことから、R3 年度は全体的に大幅な増となっている。利用者が増加した中で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしっかりと行い受け入れを行ったことは評価できる。

出前講座については、昨年度比で増加しているが、まだコロナ禍前の 1 / 4 程度である。P T A 団体からの利用が減っており、担当者が変わるため、一度利用がなくなると、再度利用されないケースが多い。年度当初に情報発信行う等の広報活動を行っていく必要がある。

4 管理経費の収支状況

① 収入			
項目	内訳	金額 (円)	
利用料金収入	本館	一般 389 人、高校生以下 2,521 人、就学前の者 130 人	923,870
	キャンプ場	一般 0 人、高校生以下 0 人、就学前の者 0 人	0
	宿泊を伴わない利用	一般 370 人、高校生以下 1,476 人、就学前の者 381 人	110,800
指定管理料	指定管理者による本施設への振り分け	60,124,000	
企画事業等収入	17 事業	318,680	
その他活動収入	出前講座 62 団体	478,300	
プログラム活動料金		1,216,990	
食事代		5,937,980	
シーツ等クリーニング代		477,700	
雑収入		70,748	
合計		69,659,068	
	収入未済額	0	
	うち利用料金収入分	—	

② 支出		
項目	内訳	金額 (円)
人件費		45,157,761
運営管理費	旅費、管理費、活動プログラム費等	5,722,072
維持管理費	光熱水費、業務委託費、施設修繕費	23,669,000
企画事業費		171,639
合計		74,720,472
【点検・調査結果及び評価】		
利用料金収入については適正に収納され、指定管理料と併せて施設管理運営に必要な経費に適切に使用されている。		

5 利用者調査結果

調査実施 内容	調査年月日	令和3年4月1日～令和4年3月31日											
	調査方法	全ての利用者団体にアンケート調査を実施											
	調査対象数	106 団体											
調査結果	調査分野	回答内容											
		非常によい		よい		普通		あまりよくない		悪い		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	集団生活を学ぶ場	94	88.7	12	11.3	0	0	0	0	0	0	0	0
	活動内容	89	84.0	14	13.2	1	0.9	0	0	0	0	2	1.9
	職員の受入れ対応	99	93.4	4	3.8	3	2.8	0	0	0	0	0	0
	職員の指導・助言	94	88.7	10	9.4	2	1.9	0	0	0	0	0	0
	食堂スタッフの対応	55	51.9	9	8.5	1	0.9	0	0	0	0	41	38.7
	食事の質	50	47.2	18	17.0	5	4.7	1	0.9	0	0	32	30.2
	食事の量	53	50.0	15	14.2	4	3.8	0	0	0	0	34	32.1
	屋内の施設・環境	74	69.8	19	17.9	4	3.8	2	1.9	0	0	7	6.6
	屋外の施設・環境	83	78.3	13	12.3	1	0.9	0	0	0	0	9	8.5
	また利用したいか	ぜひ				機会があれば				利用しない		無回答	
		90	84.1			14	13.1			0	0	3	2.8
利用者からの意見等													
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、例年に比べ日帰り利用の団体が多く、食事に関する項目は無回答の割合が増えることとなった。昨年度までの課題であった「食事の質」、「屋内の施設・環境」の評価が上昇している点については評価できる。</p>													

6 意見・苦情等の対応

利用者からの意見・苦情等	改善状況
特記事項なし	
【点検・調査結果及び評価】	

7 昨年度の評価で、改善を指摘された事項に対する対応

指摘事項	改善内容・結果
<p>新型コロナウイルス対応への継続的な取り組みを行うこと。</p>	<p>施設管理について、一日3回の拭き上げや消毒液の補充など習慣化できている。また、食堂に飛沫防止用のパーテーションを設置するなど、利用者の声や国、県の動向に合わせた設備更新を行なっている。現在まで、施設利用者から感染者は出ておらず、「施設内で感染者を出さない」という視点で感染対策を実施しているが、国内や県内の感染者数を考慮し、今後は「施設内で感染者が出ても感染拡大させない」「感染者が出たら、正しい情報提供、迅速な対応」という視点も入れた対策を実施していきたい。</p>
<p>予防保全の視点も踏まえた施設管理を行うこと。</p>	<p>月に一度の設備点検やメンテナンス作業は定期的に行っている。自然災害における予防保全として、ある程度予測可能な台風や大雨については、事前対策のマニュアルがあり、被害を出さない、出ても最小限に抑えられるよう対策ができています。予測が難しい地震や山の噴火などは、災害後の対応マニュアルは作成しているが、事前対策のマニュアルがないため、熊本地震や他県の災害を教訓に事前対策リストを作成し、「棚が倒れないようにする」「水などを備蓄しておく」などの対策をしている。今後は他の公共施設などを参考に対策を強化していきたい。</p>
<p>【点検・調査結果及び評価】</p> <p>新型コロナウイルスの対応については、消毒作業が習慣化されている。予防保全の視点も踏まえた施設管理についても、災害対策等、利用者が安全に施設を利用できるよう準備を行っている点については評価できる。</p>	

8 その他

<p>特記事項なし</p>
